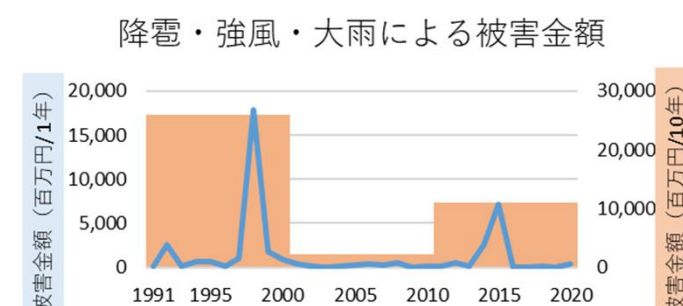
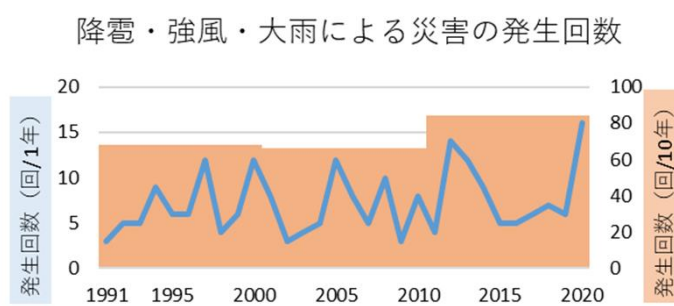
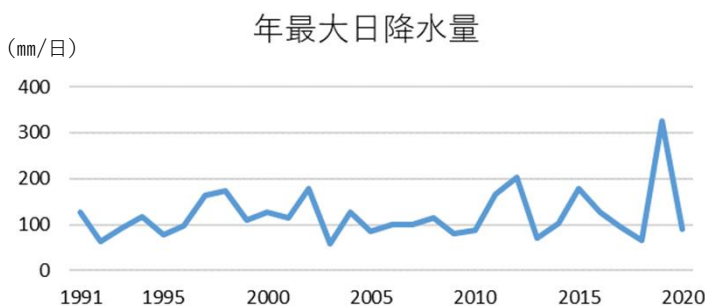


県全域における降雹・強風・大雨の発生・被害の傾向

【全体概要】

- （図左）宇都宮における年最大日降水量は、過去30年間で平均121mm。統計的変化傾向はみられない。最も大きいのは、2019年の326mm。
- （図中）降雹・強風・大雨による農業気象災害の発生件数は、過去30年間で平均7.3件。年間発生件数に統計的変化傾向はみられない。10年単位の発生件数は68、66、84件。
- （図右）降雹・強風・大雨による被害金額は、過去30年間で平均1,310百万円。被害金額に統計的変化傾向はみられない。10年単位の金額は26,048、2,174、11,089百万円。
- なお、日本全体では約40年間で、年最大日降水量には増加傾向が確認され、日降水量200・400mm以上の大雨の年間日数には増加傾向が確認されている*1。



（注）グラフのオレンジ部分は、10年単位（1991～2000年、2001～2010年、2011～2020年）の合計値

【主な被害品目】

- 過去30年で被害金額の大きい主な品目は、水稲（3,895百万円）、麦類（3,235百万円）、梨（1,653百万円）。
- （図左）水稲の災害件数・被害金額は、最高で年間4件、最大の被害金額は1998年の1,647百万円。
- （図中）麦類の災害件数・被害金額は、最高で年間8件、最大の被害金額は2014年の2,463百万円。
- （図右）梨の災害件数・被害金額は、最高で年間9件、最大の被害金額は1992年の533百万円。
- また、農業用施設や水利施設における被害金額も大きく、過去30年でそれぞれ2,776百万円、13,544百万円となっている。

